



芦屋町 響灘望む古民家風

# 周産期医療分担のモデルに

## 産科医が助産院開業

福岡新水巻病院周産期センター（水巻町）の齋藤竜太副センター長（45）が私費を投じ、芦屋町山鹿に4日、助産院「九州バースセンター姥が懐」を開業させた。

### センターと連携しリスク回避

施設は古民家風の落ち着いた造りで、響灘を望む見張らしの良い場所にある。安産が見込まれる妊婦にはこの産院でリラ

ックスして自然分娩してツクスという、早産などリスクが高い妊婦は同病院に入院させ安全に出産させる仕組み。産科医療の役割

分担を図る狙いで、齋藤医師は「産院と病院の連携のモデルケースにし、安全な出産システムを普及させるきっかけにした」と話している。

姥が懐では、同病院の同一医師が妊婦に最低3回の健診を実施。経過観察で危険が生じた場合は

ターで働く中で、助産院と開業医や大病院のつながりが希薄なことが、事故の要因になっていると痛感したという。「地域の助産院と病院が緊密に連携することで、受け入れ先が見つからずらい回しになるような悲劇を防ぎたい」としている。

同病院での出産に切り替える。姥が懐で出産する場合も、緊急時は同病院の医師が対応する。夫や子どもも一緒に宿泊できる。6日正午から施設見学会や記念コンサートがある。姥が懐093(701)8103。